

A級は北日本勢と藤田祐大の図式！
チャンレジは新鋭同士のV争い！

7月にA級へ降級してから、9月末までに優勝5回、準優勝2回と、一度も連対を外していない一丸尚伍がシリーズリーダーだったのが早々と不参加届けを提出。これで優勝争いは混沌としてきた。

北日本は小笠原一真が先頭で引っ張り、松澤敬輔と前川大輔が続く形。小笠原は積極的なタイプで、脚質もドームに合っている。松澤はタテ脚が持ち味で、10月のいわき平開催では優勝を飾った。前川も自力脚を残しつつ、追い込みもこなせる。

関東では藤田祐大が売り出し中。10月の平塚で完全優勝を果たし、レース内容も良かった。地元の前川真広は点数の関係で予選スタートとなるが、勝ち上がれば藤田の番手になる可能性が高い。

南関は二藤元太が点数上位。ただ、1班に強力な機動型が不在なのは気になる。一方、2班の大塚城は将来のS級候補として注目したい。

中四国では、前期S級の片山智晴に注目。弟子も多く、岡山の重鎮になりつつある。

チャレンジは129期同士のV争い。阿部風汰、勝沼遼、鶴健志、満田光紀の4人が参戦する。勝沼を除く3人には優勝経験があるものの、突出した脚力を持つ選手は見当たらず、戦歴では満田がややリードしている。追い込み陣では佐藤和典と作田悦章が安定感を見せる。さらに、127期の十文字悠真も優勝候補の一人に挙げられる。

レース展望



小笠原一真
青森 123期



松澤敬輔
北海道 97期



藤田祐大
茨城 125期



田村真広
群馬 83期

※2026年 10月 19日現在のデータです。

出場予定選手 (A級)

地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県
北日本	松澤 敬輔	97	北海道	小笠原 一真	123	青森	前川 大輔	113	福島	選手名	期	府県
関東	藤田 祐大	125	茨城	田村 真広	83	群馬	小沼 良	68	埼玉	山田 雄大	117	埼玉
南関東	池邊 聖	123	神奈	二藤 元太	95	静岡						
中国	片山 智晴	92	岡山	石坂 永伍	93	岡山	白井 優太郎	119	広島			
九州	名川 豊	99	福岡	野口 大誠	105	熊本	富尾 享平	101	宮崎			

地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県
北日本	竹内 優也	89	北海道	阿部 英光	89	宮城						
関東	小室 貴広	75	茨城	阿部 康昭	89	群馬	阿久津 浩之	94	東京			
南関東	河上 陽一	99	千葉	荻野 哲	75	神奈	大塚 城	127	静岡			
中国	守安 政雄	94	岡山	中田 拓也	127	広島						
四国	武田 良太	88	愛媛	橋本 勝弘	89	愛媛						
九州	梶山 裕次郎	87	福岡	田中 孝法	91	福岡	松尾 大樹	87	長崎	山口 幸太郎	99	長崎
	吉田 航	127	大分	池田 伍功羽	121	熊本						

出場予定選手 (チャレンジ)

※2026年 10月 19日現在のデータです。

地区	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県	選手名	期	府県
北日本	中野 良	83	北海道	菅原 洋輔	98	岩手	山崎 功也	95	宮城	岡田 哲夫	92	福島
関東	十文字 悠真	127	福島									
南関東	黒崎 直行	57	栃木	坂本 英一	59	栃木	三木 翔太	95	群馬	吉田 昌弘	97	埼玉
中国	阿部 風汰	129	埼玉	勝沼 遼	129	東京						
四国	和泉田 喜一	59	千葉	佐藤 和典	70	神奈	長崎 達也	89	神奈	山内 大作	75	静岡
九州	高嶋 一朗	62	岡山	森 佑樹	94	岡山	井山 和裕	84	山口	右近 陸人	127	山口
	齋藤 仁	83	徳島	作田 悦章	92	徳島						
	田中 弘章	68	福岡	秋永 昂人	98	福岡	鶴 健志	129	福岡	中野 功史	84	長崎
	倉岡 慎太郎	59	熊本	満田 光紀	129	熊本	濱田 昭一郎	67	鹿児島			

アオケイ新聞が本場開催時にホームページから無料で見られる

競輪情報なら競輪専門情報紙 競輪ニュース

24時間365日、いつでもどこでも簡単プリント！

セブン-イレブン FamilyMart LAWSON ミニストップ Daily 7 Seicomart

競輪専門紙・出走表がコンビニのマルチコピー機から24時間365日出力可能！！

プリントサービス 03-5830-1808

前橋競輪公式 Facebook

https://www.facebook.com/maebashikeirin.official/

① マッチーの突撃、開催レポート
毒と愛のある記事をもっとにしている、闘うフリー記者のマッチーが、ドーム本場開催から、地元選手を熱くレポート。

② 闘う記者マッチーのどこまでも群馬支部
群馬の選手が走るレースを、全国どこまでも追っ掛けて詳しくレポートするコーナー。

【11月開催】場外発売 GI・GⅢのレース展望

10/31(土) 11/1(日) 2(月) 3(火・祝)
府府記念 周防国府杯争奪戦 GⅢ

S級S班の眞杉匠と脇本雄太は不参加届けを出している。よってS班のメンバーは郡司浩平と南修二が参戦。地元からは清水裕友をはじめ、太田海也、町田太我、取島雄吾といった中国地区の実力者も顔をそろえた。

シリーズの中心は、地元記念の5連覇を含む6度の優勝を誇る地元の清水。昨年は松本貴治の優勝で連覇は途切れたが、地元記念は減法強い。援軍も多く、地元ファンを大いに沸かせそう。

郡司はS班維持に向けて勝負のレースが続く。ここでも賞金を積み重ねて、本番の小倉競輪祭を迎えたい。展開に応じた柔軟な立ち回りと、最後の直線での鋭い伸びは清水にとつて最大の脅威になる。郡司と連係するのは同僚の佐々木龍と南関で渡邊雅也。

北日本勢は菅田孝道や渡部幸訓だが、強力な機動型が不在。関東は小林泰正が超地脚を活かす。近畿は南が司令塔だが、脇本の不在が痛い。

中四国はスター揃いで清水を盛り上げる。太田と清水の相性は良く連係実績は抜群。これに地元の御大・桑原大志もラインに加わり、取島は練習の地点が防府バンクで地元意識も強い。普段はラインを組む松本だが、中国地区と別線になりそう。

九州勢はこの開催では全体的に小粒の印象だ。防府は33メートルバンクで、見なし直線は42.5メートルと短い。一方、周囲の地形によって風の影響を受けやすく、単純に先行選手だけが有利とはいえない。



清水裕友
山口 105期

11/5(木) 6(金) 7(土) 8(日) ナイター
四日市記念 泗水杯争奪戦 GⅢ

防府記念から間を置かずには始まる四日市記念。吉田拓矢は欠場になったが、古性優作、嘉永泰斗、阿部拓真、寺崎浩平ら、タイトル争いの常連がそろそろ豪華な顔ぶれとなった。

シリーズの注目は古性。自力を出せるだけでなく、他の自力型を走らせたときの判断力やコース取りにも優れており、現時点で最強のリーダー。賞金面でも大きくリードしており、公営競輪の最高選手と言っても過言ではない。近畿で寺崎浩平と連係して、4日間、人気に応えてくれそうだ。

その寺崎は、今年、鎖骨骨折も経験。本人にとつて辛い1年になっているが、ラストの小倉競輪祭でS班維持を主目的とする。やはり古性が後ろだと力が増す。

地元地区の中部勢では、浅井康太がリーダー格で、志田龍星、谷口遼平、村田祐樹らが出場予定。浅井の経験とレース判断に加え、志田や村田が自力でどこまで存在感を示せるかが焦点となる。地元地区の意地を見せたい開催だ。そして、浅井は5度目のホームバンクの記念の優勝を目指す。

北日本は中野慎詞と阿部の連係で、別線撃破も可能。これに新田祐大もいて、ライオンな層は厚い。関東は岩年で坂井洋が優勝。南関は岩松浦俊介が一発狙い。中四国は松浦悠士がいて、ライオンが引き締まる。九州は嘉永と山田庸平の息のあった連係だ。今回はナイター開催。昼間とは違う気温や風の変化も含め、当日のコンディションを見極めたい。強豪が多いだけに、単純な実績比較だけでなく、ライオンの厚みや初日から勝ち上がりが必要になる。



浅井康太
三重 90期

11/12(木) 13(金) 14(土) 15(日)
立川 施設整備等協賛競輪 GⅢ

裏GⅢの施設整備等協賛競輪だが、優勝賞金は50万円と高額。S班が中心となる通常の記念競輪とは異なり、S・S2の選手を中心としたメンバー構成で、実力者に加えて、今後の飛躍を狙う選手にも注目したいシリーズだ。

関東は武田豊樹が全体のまとめ役で、地元からは大矢崇弘と高橋繁がS級1班のメンバー。他に岸澤辰弘、小畑勝広、篠田幸希らが出場予定。篠田は岐阜記念で好回転の捲りを連発しており、今回のメンバーなら優勝も狙える。

北日本はナショナルチームを卒業した小原佑太が主力。寛仁親王牌では、理事長杯からのスタートでアドバンテージがあったが4日間、大きな着で終わってしまった。今回は、そのリベンジの意味合いもある。

中部は岐阜に移籍した吉田有希が引っ張り役で、岡本総と山口富生が追い込み型。吉田はロングの仕掛けが魅力で、ラインで決める走りを持ち味。

四国勢では太田竜馬、久米康平らが参戦予定。太田はスピードを生かした自力戦が持ち味で、早めの仕掛けから主導権を奪えるかがポイントになる。久米らとの連係がまたまれば、四国勢にとつて見どころの多い開催となる。

近畿勢では岸田剛、中井太祐、伊藤信、神田紘輔らに注目。岸田の機動力を生かす展開になれば、番手選手にもチャンスが広がる。自力型がどこまで仕掛けるかによって、近畿ライオンの存在感も大きく変わらそう。

九州勢では野田源一、立部楓真、松岡貴久、中本匠米らが候補となる。野田の自在な立ち回りは、先行争いが激しくなった際に威力を発揮しそうだ。

立川は400メートルバンクで、直線の長さを生かした追い込みも見どころになる。先行選手が押し切るのか、番手選手が差し切るのか、あるいは別線の捲りが届くのか。ライオンの組み合わせによってレースの様相が変わりやすい。

この開催では、実績上位の選手だけでなく、シリーズを通じて安定して勝ち上がる選手を見極めたい。初日から好走を続ける選手が現れれば、そのまま優勝争いの中心に浮上する可能性もある。

展望のポイントには、太田ら四国勢の機動力、岸田擁する近畿勢、そして武田ら関東勢の勝負強さ。大舞台の常連と勢いのある選手が交錯する、混戦模様のシリーズになりそう。



吉田有希
岐阜 119期

11/18(水) 19(木) 20(金) 21(土) 22(日) 23(月・祝) ナイター ガールズ
小倉 朝日新聞社杯競輪祭 GI

今年のGIシリーズを締めくくることが、小倉で開催される競輪祭だ。年末のKEIRINグランプリを見据えた重要なGIであり、タイトル獲得だけでなく、賞金ランキングで年末の出場権争いという面でも大きな意味を持つ。

出場予定選手は108名。選考順位の上位には古性優作、吉田拓矢、眞杉匠、郡司浩平、嘉永泰斗、寺崎浩平、脇本雄太、阿部拓真、南修二らが名を連ねる。さらに太田海也、中野慎詞らナショナルチームの選手も加わり、スピードと技術がぶつかり合う開催となる。

中心選手としてまず挙げたいのは古性。自力、追い込みの両面で高い対応力を持ち、GIの一瞬の判断で勝敗を分ける舞台で強みを発揮する。近畿勢の連係が機能すれば、優勝争いの有力な一角となる。

関東勢では吉田と眞杉に注目。眞杉が積極的に動いてレースを作り、吉田が自在な立ち回りで勝負を探るなど、関東ライオンの組み立てが重要になる。佐々木悠葵も賞金順位の上位に位置して連日勝負駆けだ。

近畿勢は脇本、寺崎、南らの存在も大きい。脇本と寺崎はスピードを生かした自力戦が魅力で、南は追走からの差し脚が武器。強力な自力型が複数いるだけに、ライオンの組み方も注目したい。

南関東の郡司、九州の嘉永、四国の松本貴治も優勝争いに加わる力を持つ。さらに太田や中野のように、従来の競輪とは異なるスピード感を持つ選手が、従来の主力勢を相手にどこまで戦えるかも見逃せない。

親王牌で石原颯がタイトルホルダーになり、地区の勢いは中四国が一番ある。犬伏湧也と石原颯が両輪の活躍で、もうひとりのGI覇者を誕生させる可能性も高い。

ガールズケイリンは佐藤水菜が絶対的な存在。これにストロップ・サトミナを実現できる選手が出てくるかが問題。

スピードで対抗する人気ナンバーワンの児玉碧衣、若さで機動力を備える仲澤春香、自在性のある久米詩らがどのような戦いを見せるかに注目したい。太田りゅや梅川風子らも、展開ひとつで上位進出を狙える存在だ。決勝ではサトミナにマイクに分かれる。どうあれ、サトミナの牙城は高く、簡単なる事ではない。3日間の短期決戦である以上、初日から確実に勝つ必要がある。決勝で佐藤を倒すには、単に力だけでなく、技術的な面での位置から、どのタイミングで勝負に出るかが問われる。



古性優作
大阪 100期